

第七章 スリナガル出發歸朝

十月三十一日午後二時半、予等一行『タンガ』(二頭馬車三)に分乗、スリナガルを出發して、バラムラに一泊。

十一月一日、カリ一泊。

二日、テレットに一泊。

三日、正に天長の佳節に値ふ。朝起盃、遙に東天を望みて、聖壽の無窮を奉祝し、三人卓を圍みて杯を擧ぐ。性來酒を用ひざる予も原氏も、是日ばかりは引滿乾杯して、謹みて萬歳を三唱せり。畢つて出發し、午後五時ラワルビンデーに到着す。例に依り『ダックパンガロウ』に投宿す。

四日、鐵路西行ペンシャールに到る。

五日、滞在、師團長マロー將軍を訪ひ、カイバル要塞(印度と阿の境)を觀るの許可を得たり。將軍は明治三十三年北清事變の際、印度兵を指揮し、連合軍に参加したる人、當時の記念として、我山口、福島兩將軍の小照を壁間に掲げ在り。

旅中第二
回の天長
節を迎ふ

カイバル
要塞の見
物